

新しいケーソンが到着

釜石湾口防波堤

復旧が進められている釜石港の、湾口防波堤の再建に使用される新たなケーソンが、釜石港に着岸しました。早期復旧のため工夫を凝らした大型ケーソンです。曳航船に曳かれ、釜石港に到着したのは名古屋で一年かけて製作されたハイブリッドケーソンです。通常のケーソンは、大きいもので、長さ30メートルほどですがハイブリッドケーソンは内部に、鋼板を使用する事で、強度を確保、大型化が可能となります。防波堤の「本体」となるもので、長さ50メートル、高さはおよそ20メートルあります。国交省では、平成27年度中に、釜石湾口防波堤の復旧を完了するとしていて、名古屋や千葉などで、ハイブリッドケーソンの製作を進めています。到着したケーソンは、今月19日に、現場の海に沈設される予定です。(6/7 ニュースエコー)



曳航船に曳かれ、釜石港に到着したのは名古屋で一年かけて製作されたハイブリッドケーソンです。通常のケーソンは、大きいもので、長さ30メートルほどですがハイブリッドケーソンは内部に、鋼板を使用する事で、強度を確保、大型化が可能となります。防波堤の「本体」となるもので、長さ50メートル、高さはおよそ20メートルあります。国交省では、平成27年度中に、釜石湾口防波堤の復旧を完了するとしていて、名古屋や千葉などで、ハイブリッドケーソンの製作を進めています。到着したケーソンは、今月19日に、現場の海に沈設される予定です。(6/7 ニュースエコー)

宮古発

街なか復興市

津波で大きな被害を受けた宮古市中心部の商店街で、なりわいの再生に向けた「宮古街なか復興市」が開かれました。「宮古街なか復興市」は一昨年6月の第1回から数えて今回が5回目の開催です。会場となった宮古駅前から市役所に向かう中心商店街は、色とりどりの大漁旗で飾られました。たくさんのイベントの中で今回初めて企画されたのは、仮設住宅などで暮らす被災者たちの出店スペース。バッグや織物など思いのこもった手づくりの商品が販売され、人気を集めていました。また子ども達の潮干狩り体験や郷土芸能なども披露され、商店街は午前中から大勢の人たちで賑わいました。(6/8)



宮古発

さんりく元気ラジオ



今週はみやこ災害FMの木村悠里さんが、「宮古のうんめーもん、皆で作って食べっぺ」という番組について伝えてくれました。これは仮設住宅にお邪魔し、みんなでワイワイと料理を皆で作って、美味しく楽しいひと時を過ごそうというもので、狭い仮設住宅の台所でも調理できる料理を「宮古地方食の匠の会」の皆さんが紹介しています。7回目となる今回は、宮古市津軽石の藤畑仮設住宅の談話室で「チンゲン菜と卵の炒めもの」と「楽しい太巻き寿司～お花の海苔巻～」を作りました。参加なさった方は「皆で料理して食べるって楽しい。」と、このひと時を楽しんでいました。(6/12)



7回目となる今回は、宮古市津軽石の藤畑仮設住宅の談話室で「チンゲン菜と卵の炒めもの」と「楽しい太巻き寿司～お花の海苔巻～」を作りました。参加なさった方は「皆で料理して食べるって楽しい。」と、このひと時を楽しんでいました。(6/12)

陸前高田発

月命日 一本松に「祈り」



東日本大震災から2年3か月。復元作業に伴う足場が取れた陸前高田市の「奇跡の一本松」には多くの人が訪れ、それぞれの思いで一本松を見上げました。復元作業が進められていた陸前高田市の「奇跡の一本松」

は、今月8日に足場が外されました。月命日の11日は県内外から多くの人々が訪れ、一本松に向かって手を合わせたり花を手向けたりするなど、震災の犠牲者を偲ぶ姿が見られました。(6/11)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122